

# YOGA THERAPY

ヨーガ療法は、伝統的なヨーガを基礎医学にもとづいて研究応用し、  
どなたでも気軽に安全にできるようにつくられました。

身体機能の回復、強化だけでなく、  
心の落ち着きや睡眠など精神的な健康を向上させる方法として  
心と体に効果的な健康法です。



2014年ユネスコは6月21日を国際ヨーガデーに制定しました。以来日本ヨーガ療法学会は国際ヨーガデーに参加し、今年は『チェルノブイリ被爆者の子供たちに胃カメラを送ろう』と題し、全国各地でチャリティーヨーガを開催しています。

参加費は(社)ヨーガ療法学会を通じてチャリティーとして寄付させていただきます。



ヨーガ終了後にはNPO法人富山ダルクリカバリークルーズによる岩瀬太鼓「海岸組」の迫力ある和太鼓演奏をお楽しみください。

月2回ダルクの回復プログラムの一環として、ヨーガ療法士会富山のメンバーと一緒にヨーガセラピーをしています。

\*富山ダルクは薬物依存からの回復を目指すNPO法人です。

日本ヨーガ療法学会では2009年からウクライナ国キエフ市でのチェルノブイリ被爆事故被災者支援活動を実施しています。

## 『子供の胃カメラ支援が必要な理由』

キエフに赴いた時は、毎回、キエフ市立第9小児病院(消化器系専門病院)にて入院している子供たちにヨーガ療法の指導を行っています。小学1年生から中学3年生までの子供たちが参加します。参加している子供たちの病気は胃潰瘍だそうです。

何故、胃潰瘍になるのかという病院の医師は、ストレスが一つの原因と話していました。親が先行きに不安を感じて、それを子供たちが敏感に感じ取っているからと。

被曝の影響により、消化器系が弱いという人もいましたが、よく判らないというのが現状です。

ウクライナ国の経済は大変厳しい状況になっています。

病院の薬棚には、殆ど薬品がなく、医療機器も旧式のものばかりで、その中で胃カメラも、ファイバースコープの先端にある器具が壊れたため、医師が何とか自作して、騙し騙し使っているような状況でした。また、チューブが子供用としては太いため、小さな子供には大変な苦痛を伴い、稀に食道を傷つけることもあるそうです。大人でも飲みにくい太さのファイバーを幼稚園児にまで飲ませなくてはならないと医師は嘆いています。

何とか日本製の細いチューブのものを支援して欲しいと。その訴えを聞き、日本ヨーガ療法学会では、国際ヨーガの日のチャリティーヨーガで寄付を募り、2年計画で子供用胃カメラをキエフの子供たちに寄付することにいたしました。

全国の皆様、どうか宜しくお願い申し上げます。

現地で指導して来られた古市佳也ヨーガ療法士より

